

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 人間の尊厳と自立	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 小池 綾子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と□□について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の尊厳と自立では、介護福祉を实践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。 一つは福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。 また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間」の理解を図る。 ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。 ・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間の尊厳と人権・福祉理念:人間の尊厳と利用者主体①</p> <p>第3回 人間の尊厳と人権・福祉理念:人間の尊厳と利用者主体②</p> <p>第4回 人間の尊厳と人権・福祉理念:人権思想の潮流とその具現化</p> <p>第5回 人間の尊厳と人権・福祉理念:人権や尊厳に関する日本の諸規定</p> <p>第6回 人間の尊厳と人権・福祉理念:社会福祉領域での人権・福祉理念の変換①</p> <p>第7回 人間の尊厳と人権・福祉理念:社会福祉領域での人権・福祉理念の変換②</p> <p>第8回 人間の尊厳と人権・人権尊重と権利擁護①</p> <p>第9回 人間の尊厳と人権・人権尊重と権利擁護②</p> <p>第10回 自立の在り方:自立の概念と多様性①</p> <p>第11回 自立の在り方:自立の概念と多様性②</p> <p>第12回 自立の在り方:自立とは</p> <p>第13回 自立の在り方:介護を必要とする人々の自立と自立支援</p> <p>第14回 自立の在り方:介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関わり</p> <p>第15回 まとめ・定期試験</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・「人間の理解」(中央法規) ・作成したプリント</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 人間関係と コミュニケーション I	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">講義</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">演習</div> 実習 </div>		授業担当者 中村 和正
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間同士の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得することを目的とする。			
[授業全体の内容の概要] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を講義。演習を通じて学習する			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・人間関係について理解する。 ・対人関係におけるコミュニケーションが理解する。 ・組織におけるコミュニケーションが理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 2 人間関係とコミュニケーション 人間と人間関係(人間の誕生と介護・自分と他者の理解) 3 人間関係とコミュニケーション 人間と人間関係(発達心理学と社会心理学) 4 人間関係とコミュニケーション 人間と人間関係(人間関係とストレス) 5 人間関係とコミュニケーション 対人関係におけるコミュニケーション 6 人間関係とコミュニケーション 対人関係におけるコミュニケーション 7 人間関係とコミュニケーション 対人関係におけるコミュニケーション 8 人間関係とコミュニケーション 対人援助関係とコミュニケーション 9 人間関係とコミュニケーション 対人援助関係とコミュニケーション 10 人間関係とコミュニケーション 対人援助関係とコミュニケーション 11 人間関係とコミュニケーション 組織におけるコミュニケーション 12 人間関係とコミュニケーション 組織におけるコミュニケーション 13 人間関係とコミュニケーション 組織におけるコミュニケーション 14 振り返り 15 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 人間関係とコミュニケーション テキスト プリント		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果・意欲・出席日数などを考慮し、総合的に評価をする。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 人間関係と コミュニケーションⅡ	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">講義</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">演習</div> <div>・ 実習</div> </div>		授業担当者 中村 和正
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護実践をチームでマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チームの運営の基本を学ぶことを「目的」とする。			
[授業全体の内容の概要] 介護の実践におけるチームマネジメントとは、介護の質を高め、よりよいケアを行うために、チームメンバー全員で行う、チームとサービスのための取り組みである。その後、「ケアを展ずるためのチームマネジメント」「人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント」「組織の目標達成のためのチームマネジメント」を講義と演習を交えて理解する。これらを通じて、介護実践におけるチームマネジメントを学ぶものである。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護実践におけるチームマネジメントがなぜ必要なのかを理解する。 ・ 介護実践におけるチームマネジメントを理解するためのキーワードとなる「組織の運営管理」「人材管理」「チームの運営の基本」について理解する。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数 1 前期の授業の振り返り 2 介護実践におけるチームマネジメント 介護実践におけるチームマネジメントの意義 3 介護実践におけるチームマネジメント 介護実践におけるチームマネジメントの意義 4 介護実践におけるチームマネジメント ケアを展開するさまざまなチームについて考える 5 介護実践におけるチームマネジメント ケアを展開するためのチームマネジメント 6 介護実践におけるチームマネジメント ケアを展開するためのチームマネジメント 7 介護実践におけるチームマネジメント リーダーシップ・フォロワーシップについて考える 8 介護実践におけるチームマネジメント 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 9 介護実践におけるチームマネジメント 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 10 介護実践におけるチームマネジメント 介護福祉士のキャリアをイメージする 11 介護実践におけるチームマネジメント 組織の目標達成のためのチームマネジメント 12 介護実践におけるチームマネジメント 組織の目標達成のためのチームマネジメント 13 介護実践におけるチームマネジメント 組織の理念について考える 14 振り返り 15 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 人間関係とコミュニケーション テキスト プリント		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果・意欲・出席日数などを考慮し、総合的に評価をする。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解A	授業の種類 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 40px; display: inline-block; margin: 0 auto; text-align: center; vertical-align: middle;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 渡辺 志朗
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 本講義では、社会の仕組みを支える社会保障制度の基礎と、介護専門職として不可欠な実践的知識を学びます。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 1. 社会人としての必須知識(社会保険)、医療保険、年金保険、労働者災害補償保険(労災)など、私たちの生活に密着した制度を整理します。これらは単なる知識ではなく、一人の市民・社会人として自らの生活を守り、社会を支えるための「必須の教養」として理解を深めます。 2. 当事者視点での制度理解(介護・障害者福祉) 介護保険制度や障害者福祉制度については、教科書的な解説に留まりません。 「もし、自分の親が要介護状態になったら？」 「もし、自分自身が障害を負うことになったら？」 このような「自分事(当事者視点)」を大切にします。実際に制度が必要になった際、どのような手続きを経て、どのようなサービスを組み合わせて利用していくのか。具体的なシミュレーションを通じて、将来の利用者や家族に寄り添える実践的な視点を養います。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 制度を「暗記するもの」ではなく、自分や大切な人の生活を支える「生きたツール」として捉え直すことで現場で役立つ確かな知識を習得します。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第1章 社会と生活のしくみ 2 第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 3 第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 4 第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 5 第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 6 第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 7 第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 8 第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 9 第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 10 第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 11 第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 12 第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 13 第6章 介護実践に関連する関連する諸制度 14 第6章 介護実践に関連する関連する諸制度 15 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 第3版		[単位認定の方法及び基準] 出席、テストによる (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解B	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 静間 宏治
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 高齢者保健福祉と介護保険制度、並びに障害者保健福祉と障害者総合支援制度を理解し、介護・支援の必要な人々の生活援助の方法、その基礎となる法制度を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 介護保険制度と障害者総合支援制度について、介護実践に必要な視点から基礎的知識を習得する。また、個人情報保護や生活困窮者支援などの基礎を学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] <ul style="list-style-type: none"> ○介護保険制度について理解できる。 ○障害者総合支援制度について理解できる。 ○介護実践に関連する諸制度について理解できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 高齢者保健福祉の動向 2 高齢者保健福祉に関連する法体系 3 介護保険制度のしくみ ① 4 介護保険制度のしくみ ② 5 介護保険制度の動向 6 障害者保健福祉の動向 7 障害者保健福祉に関連する法体系 8 障害者総合支援制度 ① 9 障害者総合支援制度 ② 10 障害者総合支援制度 ③ 11 個人の権利を守る制度・施策 12 保健医療に関する制度・施策 13 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 14 地域生活を支援する制度・施策 15 試験			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 社会の理解		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題、授業態度等を加味し総合評価する。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護現場に役立つ 記録報告書の書き方 I	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 演習 実習 </div>		授業担当者 川端 文悟
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 選択
[授業の目的・ねらい] 難しい言葉を使わず、誰が読んでも「何があったか」が正確に伝わる短い文章を書く力を身につけます。まずは「メモをとる」「一文を短くする」という基礎から始め、介護現場で自信を持って記録が書けるようになることが目標です。			
[授業全体の内容の概要] 最初の数回は「～です・～ます」を使い、短く分かりやすい文を書く練習から始めます。次に「いつ・どこで・誰が・何をしたか(5W1H)」をパズル感覚で整理するコツを学びます。 後半は、食事やトイレなどの日常的な場面のイラストや短い動画を見て、実際に簡単なメモを取り、記録を書く練習を繰り返し行います。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 記録を書く理由を、自分の言葉で簡単に説明できる。 2. 一文を短くし、主語と述語がわかる文章が書ける。 3. 「いつ・どこで・誰が・どうした」を整理して書ける。 4. 自分の考え(主観)と、実際に起きたこと(事実)を分けて書ける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回:なぜ記録を書くのか?介護記録の目的と現場での重要性を学ぶ(講義) 第2回:誰が読んでも分かるように、一文を短く分かりやすく書くコツ(講義) 第3回:介護現場で毎日使う基本的な専門用語と、よく使う漢字の確認(講義) 第4回:情報を整理する基本ルール「5W1H」の考え方と意味を知る(講義) 第5回:5W1Hの枠組みに当てはめて、実際の介護場面の文章を作る(講義・演習) 第6回:自分の考え(主観)と見たままのこと(事実)の違いを理解する(講義) 第7回:実際の事例から、事実と主観を明確に区別して記録にまとめる練習(演習) 第8回:相手に失礼のない丁寧な言葉遣いと、やさしい敬語の基礎を学ぶ(講義) 第9回:現場で必要な情報を逃さない、効率的なメモの取り方と要点整理(講義) 第10回:バイタルサイン(体温や血圧など)の正しい記録方法と注意点(講義) 第11回:食事の摂取量や排泄の状況など、生活場面における記録の基本(講義) 第12回:入浴時の皮膚状態の観察や、移動時の介助状況に関する記録の基本(講義) 第13回:これまでの学びを活かし、日常生活の記録を書く基本手順を確認(講義・演習) 第14回:短い動画を視聴し、実際の現場を想定した日常記録を作成する(演習) 第15回:全体のまとめと、授業内で完結する記述式の期末課題の作成(評価)			
[使用テキスト・参考文献] ・講師自作のプリント	[単位認定の方法及び基準] 第15回の授業内で実施する「記述式課題(確認テスト)」の提出をもって評価します。(※定期筆記試験は実施しません) 指定された制限時間内に記述課題に取り組み、期日(授業時間内)までに提出を完了した者を合格(単位認定)とします。 ただし、時間内の提出がなされなかった場合、あるいは白紙に近い状態での提出は不合格の扱いとします。		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護現場に役立つ 記録報告書の書き方Ⅱ	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">講義</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">演習</div> 実習 </div>		授業担当者 川端 文悟
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 選択
[授業の目的・ねらい] 1年生で学んだ「短い文で事実を書く」基礎を活かし、転倒などの「いつもと違うこと(異常)」や「事故」を正確に報告する力を育てます。現場でよく使う報告書の形(フォーマット)に慣れ、チームのスタッフやご家族へ、分かりやすく情報を伝える実践的な文章力を身につけることが目的です。			
[授業全体の内容の概要] まずは1年生の復習から始め、介護現場で必ず書く「ヒヤリハット報告書」や「事故報告書」の書き方を段階的に学びます。難しい言葉は使わず、事故が起きたときの「前・中・後」を分けて書く練習や、「なぜ起きたか」「どう防ぐか」を簡単な言葉で書く練習を繰り返します。後半は、ご家族への連絡帳や、次のシフトの人への申し送りの書き方を学びます。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. いつもと違う様子(異常)を見つけたとき、何を書けばいいか分かる。 2. ヒヤリハットや事故が起きたときの状況を「前・中・後」に分けて書ける。 3. 決められた報告書の用紙(枠内)に、適切な量の情報をまとめることができる。 4. 申し送りやご家族への連絡帳で、相手が嫌な気持ちにならない丁寧な文章が書ける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回: I の復習と、現場で扱う様々な報告書(ヒヤリや事故等)の役割確認(講義) 第2回: 利用者のいつもと違う様子や「異常」にいち早く気づく視点を養う(講義) 第3回: ヒヤリハットとは何か? 小さな危険を発見し、報告する意義を学ぶ(講義) 第4回: ヒヤリハット報告書の基本的なフォーマットと、各項目の書き方(講義) 第5回: よくあるヒヤリハット事例をもとに、専用紙へ簡潔にまとめる(講義・演習) 第6回: 事故報告書の目的と、作成時に注意すべき客観的な視点の持ち方(講義) 第7回: 事故発生時の状況を「前・中・後」の時系列に整理して書く方法(講義) 第8回: 事故がなぜ起きたのか、客観的な事実に基づいた「原因」の考え方(講義) 第9回: 同じ事故を繰り返さないため、現場で実行可能な「対策」の導き方(講義) 第10回: 転倒事故の事例を用い、状況・原因・対策を報告書にまとめる手順(講義・演習) 第11回: 誤嚥や誤薬事故を想定し、重要なポイントを絞って報告書を作成する(講義・演習) 第12回: ご家族に日々の様子を伝える「連絡帳」の役割と、配慮すべき点(講義) 第13回: ご家族を不安にさせるNGな表現と、安心感を与える適切な敬語(講義) 第14回: 次の担当者へ確実に情報を引き継ぐ、申し送りの目的とまとめ方(講義) 第15回: 全体のまとめと、授業内で完結する記述式の期末課題の作成(評価)			
[使用テキスト・参考文献] ・講師自作のプリント	[単位認定の方法及び基準] 第15回の授業内で実施する「記述式課題(確認テスト)」の提出をもって評価します。(※定期筆記試験は実施しません) 指定された制限時間内に記述課題に取り組み、期日(授業時間内)までに提出を完了した者を合格(単位認定)とします。 ただし、時間内の提出がなされなかった場合、あるいは白紙に近い状態での提出は不合格の扱いとします。		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 家庭	授業の種類 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 澤田 江里子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 2年・後期	必修・選択 選択
[授業の目的・ねらい] 家庭が共に生きる生活の場の形成を通じて、望ましい生き方や生活の価値など、食生活・衣生活の知識や技術を通し学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 家庭の機能や家庭生活の現代的課題を知り、食生活と健康、食事計画、高齢者、障害者の食生活、被服の機能、選択と管理、介護と衣生活などについて取り上げる。 [授業終了時の達成課題(到着目標)] 食生活や衣生活の知識を深め、演習を通し健康に生活するための技術の習得、その重要性を理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 家庭生活の営み 食生活の基本知識①食生活と健康、健康と栄養、食物摂取と生体リズム 2 家庭生活の営み 食生活の基本知識②栄養素の種類と働き、栄養所要量から食事摂取基準へ 3 家庭生活の営み 食生活の基本知識③食事計画、摂取する食品の種類と量 4 家庭生活の営み 食生活の基本知識④食品と調理、食品の安全性 5 家庭生活の営み 食生活の基本知識⑤高齢者・障害者の食生活、献立作りのポイント 6 家庭生活の営み 食生活の基本知識⑥高齢者・障害者の食生活、献立作りのポイント 7 家事支援における介護技術(調理実習) ① 8 家事支援における介護技術(調理実習) ② 9 家庭生活の営み 衣服生活の基本知識①被服の役割と機能 10 家庭生活の営み 衣服生活の基本知識②被服の素材、繊維の性能 11 家庭生活の営み 衣服生活の基本知識③被服と皮膚衛生、被服の選択、管理 12 家庭生活の営み 衣服生活の基本知識④高齢者・障害者の衣生活、着脱動作適応性 13 家事支援における介護技術(裁縫) ① 14 家事支援における介護技術(裁縫) ② 15 定期テスト(栄養調理、被服)			
[使用テキスト・参考文献] ・「生活支援技術Ⅰ」(中央法規) ・作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・実技・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) レクリエーション活動援助法	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> 講義 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 小池 綾子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 選択
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として、利用者に対する適切なレクリエーション援助技術(利用者のアセスメント、環境に応じたレクリエーションの企画、実施、運営技術)を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] レクリエーションの意義と必要性について、介護実践に必要な視点から基礎的知識を習得する。 また、実習・実技を通して、レクリエーション提供の技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 介護福祉士として、レクリエーションを通じた援助技術の必要性を理解する。 介護福祉の現場に対応したレクリエーションの企画、実施、運営ができる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】コマ数</p> <p>第1回 オリエンテーション レクリエーションの意義と役割</p> <p>第2回 レクリエーションの目的、QOLと生きがい支援</p> <p>第3回 レクリエーション援助の基本原則、レクリエーション活動の種類と特徴、利用者理解と活動の選択</p> <p>第4回 高齢者の身体機能とレクリエーション、安全な活動の工夫</p> <p>第5回 認知症の人へのレクリエーション、回想法とレクリエーション</p> <p>第6回 身体機能に配慮したレクリエーション(体操・簡単な運動)</p> <p>第7回 コミュニケーションを促すレクリエーション(ゲーム・グループ活動)</p> <p>第8回 レクリエーション実施後の振り返り、利用者理解を深める</p> <p>第9回 音楽・歌を使ったレクリエーション</p> <p>第10回 手工芸・創作活動</p> <p>第11回 季節行事とレクリエーション</p> <p>第12回 レクリエーション企画の立て方</p> <p>第13回 グループによる企画作成</p> <p>第14回 レクリエーション実技発表</p> <p>第15回 発表・振り返り・まとめ</p>			
[使用テキスト・参考文献] 授業担当者の作成資料・持参する文献		[単位認定の方法及び基準] ・筆記試験の成績、提出させた課題の評価及び意欲的な取り組み、出席要件等を加味し、総合評価する。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I A	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">講義</div> ・ <div>演習</div> ・ <div>実習</div> </div>		授業担当者 中村 和正
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 ・地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割を理解する。 ・介護福祉の専門性と倫理を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1・2 オリエンテーション 前期の講義内容の説明 3・4 介護福祉士の基本となる理念 介護福祉士を取り巻く状況① 5・6 介護福祉士の基本となる理念 介護福祉士の歴史① 7・8 介護福祉士の基本となる理念 介護福祉士の歴史② 9・10 介護福祉士の基本となる理念 介護福祉の基本理念① 11・12 介護福祉士の基本となる理念 介護福祉の基本理念② 13・14 介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法① 15・16 介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法② 17・18 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活動の場と役割① 19・20 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活動の場と役割② 21・22 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士に求められる役割とその構成 23・24 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士を支える団体 25・26 介護福祉士の倫理 介護福祉士の倫理 27・28 介護福祉士の倫理 日本介護福祉士の倫理綱領 29・30 振り返り 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 介護の基本 I テキスト プリント		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果・意欲・出席日数などを考慮し、総合的に評価をする。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I B	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 中村 和正
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人をICF・自立支援・個別ケアの観点からとらえるための学習。 また、介護におけるチームケア等について理解するための学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 個別ケアの必要性やICFの理解を深め、具体的な展開方法までのプロセスを構築する思考力をつける。 資格取得へ向けて適宜小テストを行い、介護福祉士としての意識を確立する。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援を理解する ・個別ケアの具体的な展開を理解する ・ICFの考え方を理解する ・介護とリハビリテーションの関連性を理解する 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 後期の講義内容の説明 2 前期の振り返り 3 自立に向けた介護 介護福祉士における自立支援① 4 自立に向けた介護 介護福祉士における自立支援② 5 自立に向けた介護 ICFの考え方① 6 自立に向けた介護 ICFの考え方② 7 自立に向けた介護 ICFの考え方③ 8 自立に向けた介護 ICFの考え方④ 9 自立支援とリハビリテーション 自立支援とリハビリテーション① 10 自立支援とリハビリテーション 自立支援とリハビリテーション② 11 自立支援とリハビリテーション 自立支援と介護予防① 12 自立支援とリハビリテーション 自立支援と介護予防② 13 後期の振り返り 14 介護の基本 I の振り返り 15 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 介護の基本 I テキスト プリント		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果・意欲・出席日数などを考慮し、総合的に評価をする。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本ⅡA	授業の種類 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 中村 和正
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人を生活の観点から捉えるための学習。 介護福祉士を必要とする人の生活を、多様な視点から支えるための仕組みについて理解するための学習。			
[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人の生活について理解するとともに、フォーマルサービス・インフォーマルサービス、地域連携について学びを深める。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・人間の多様性を理解する。 ・高齢者、障害者の暮らしの実際を理解する。 ・フォーマルサービス・インフォーマルサービス、地域連携を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 後期の講義内容の説明 2 介護を必要としている人の理解 私たちの生活の理解 3 介護を必要としている人の理解 私たちの生活の理解 4 介護を必要としている人の理解 介護を必要としている人たちの暮らし 5 介護を必要としている人の理解 介護を必要としている人たちの暮らし 6 介護を必要としている人の理解 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 7 介護を必要としている人の理解 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 8 介護を必要としている人の理解 家族介護者の理解とその理念 9 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み 利用者の生活を支える仕組み 10 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み フォーマルサービスとは 11 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み インフォーマルサービスとは 12 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み 地域連携 13 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み 地域連携 14 後期の振り返り 15 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 介護の基本Ⅱ テキスト プリント		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果・意欲・出席日数などを考慮し、総合的に評価をする。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本ⅡB	授業の種類 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; margin: 0 auto; padding: 5px; display: inline-block;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 中村 和正
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 介護福祉の理念を理解し、倫理に基づいて介護を必要とする人の理解と生活を支える仕組み、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を倫理的に学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性、役割、機能を理解する。 ・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。 ・介護従事者自身が心身共に健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1・2 オリエンテーション 1年後期の復習 3・4 介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護における安全の確保 5・6 介護における安全の確保とリスクマネジメント リスクマネジメントとは何か 7・8 介護における安全の確保とリスクマネジメント 感染症対策 9・10 介護における安全の確保とリスクマネジメント 感染症対策 11・12 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性 13・14 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 15・16 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能 17・18 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能 19・20 協働する多職種の機能と役割 多職種連携の実際 21・22 介護従事者の安全 健康管理の意義と目的 23・24 介護従事者の安全 心の健康管理 25・26 介護従事者の安全 身体の健康管理 27・28 介護従事者の安全 労働環境の整備 29・30 振り返り 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 介護の基本Ⅱ テキスト プリント		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果・意欲・出席日数などを考慮し、総合的に評価をする。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術 I	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 中村 和正
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術を理解することにより、利用者に関わる人たちと利用者の関係調整能力を習得する。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・人間関係の形成、信頼関係の重要性について理解することができる。 ・介護におけるコミュニケーションの基本を理解することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 2 介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションとは 3 介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションの対象 4 介護におけるコミュニケーションの基本 援助関係とコミュニケーション 5 コミュニケーションの基本技術 コミュニケーション態度に関する基本技術 6 コミュニケーションの基本技術 コミュニケーション態度に関する基本技術 7 コミュニケーションの基本技術 コミュニケーション態度に関する基本技術 8 コミュニケーションの基本技術 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 9 コミュニケーションの基本技術 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 10 コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーション技術 11 コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーション技術 12 コミュニケーションの基本技術 集団におけるコミュニケーション技術 13 コミュニケーションの基本技術 集団におけるコミュニケーション技術 14 振り返り 15 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] コミュニケーション技術 テキスト プリント		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果・意欲・出席日数などを考慮し、総合的に評価をする。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術Ⅱ	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 中村 和正
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 情報伝達力の向上。人間関係の構築。問題解決能力。感情理解。キャリア向上。文化的理解。自己表現。これらにより、個人生活や職業での活用能力をつける。			
[授業全体の内容の概要] 様々な障害を持つ利用者やその家族、同僚との円滑な関係を築くためのスキルの形成。			
[授業終了時の達成題(到達目標)] 観察力の向上と共にアクティブリスニングの技術や傾聴のスキル向上をし、利用者やその家族の思いを受け止め、多職種との迅速で明確な情報提供できる力をつけ介護の質の向上に寄与できる様になる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 1年後期の振り返り 2 対象者の障害に応じたコミュニケーション コミュニケーション障害への対応の基本 3 対象者の障害に応じたコミュニケーション 視覚・聴覚障害者の方への支援 4 対象者の障害に応じたコミュニケーション 構音障害・失語症の方への支援 5 対象者の障害に応じたコミュニケーション 認知症・うつ病・抑うつの方への支援 6 対象者の障害に応じたコミュニケーション 統合失調症の方への支援 7 対象者の障害に応じたコミュニケーション 発達障害者の方への支援 8 対象者の障害に応じたコミュニケーション 高次脳機能・重度心身障害の方への支援 9 家族とのコミュニケーション 家族との関係づくり 10 家族とのコミュニケーション 家族への助言・指導・調整 11 家族とのコミュニケーション 家族関係と介護ストレスへの対応 12 介護におけるチームのコミュニケーション チームコミュニケーションと報告連絡相談の技術 13 介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術・会議・事例検討・情報管理技術 14 振り返り 15 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] コミュニケーション技術 テキスト プリント		[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果・意欲・出席日数などを考慮し、総合的に評価をする。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I A	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 伊藤 奈津希
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 支援の必要な方の日常生活を理解し、その方の状態に合わせた適切な支援ができる知識や技術を習得する。			
[授業全体の内容の概要] 生活支援における倫理観と利用者の尊厳を保持することの重要性を学び、その上で利用者の心身の状況に応じた生活支援技術を習得します。具体的には、安全で安楽な生活環境の整備、そして利用者の自立支援に向けた生活支援の展開について、講義と演習を通して体系的に学習します。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] 倫理観と尊厳保持に基づいた適切な介護実践、利用者の心身状況に合わせた安全で安楽な生活支援技術の実践、自立支援のための適切な生活環境整備、根拠に基づく自立に向けた生活支援実施ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 生活支援の基本的な考え方 2. 生活支援と介護過程① 3. 生活支援と介護過程② 4. 自立に向けた移動・移乗の介護① 5. 自立に向けた移動・移乗の介護② 6. 自立に向けた身じたくの介護① 7. 自立に向けた身じたくの介護② 8. 自立に向けた食事の介護① 9. 自立に向けた食事の介護② 10. 自立に向けた食事の介護③ 11. 自立に向けた居住環境の整備① 12. 自立に向けた居住環境の整備② 13. 自立に向けた居住環境の整備③ 14. 定期試験 15. 振り返り、まとめ			
[使用テキスト・参考文献] ・生活支援技術 I (中央法規) ・作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 試験成績、確認テスト、課題、授業態度、出席要件等を加味し総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I B	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 伊藤 奈津希
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 支援の必要な方の日常生活を理解し、その方の状態に合わせた適切な支援ができる知識や技術を習得する。			
[授業全体の内容の概要] 生活支援における倫理観と利用者の尊厳を保持することの重要性を学び、その上で利用者の心身の状況に応じた生活支援技術を習得します。具体的には、安全で安楽な生活環境の整備、そして利用者の自立支援に向けた生活支援の展開について、講義と演習を通して体系的に学習します。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] 倫理観と尊厳保持に基づいた適切な介護実践、利用者の心身状況に合わせた安全で安楽な生活支援技術の実践、自立支援のための適切な生活環境整備、根拠に基づく自立に向けた生活支援実施ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1. 前期復習 2. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護① 3. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護② 4. 自立に向けた排泄の介護① 5. 自立に向けた排泄の介護② 6. 自立に向けた排泄の介護③ 7. 自立に向けた睡眠の介護 8. 終末期の介護 9. 福祉用具の意義 10. 自立に向けた家事の介護① 11. 自立に向けた家事の介護② 12. 災害時における介護福祉職の役割、災害時における生活支援の実際、応急手当について 13. まとめ 14. 定期試験 15. 振り返り			
[使用テキスト・参考文献] ・生活支援技術 I (中央法規) ・作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 試験成績、確認テスト、課題、授業態度、出席要件等を加味し総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術ⅡA	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 伊藤 奈津希
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 ICFの視点を生活に生かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、清潔保持、排せつ、家事、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到着目標)〕 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 ・生活の豊かさや心身の活性化7、自立支援のための居住空間の整備について基礎的な知識を理解できる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>1.2 ガイダンス</p> <p>3.4 寝具の整え方</p> <p>5.6 自立に向けた移動の介護①</p> <p>7.8 自立に向けた移動の介護②</p> <p>9.10 自立に向けた移動の介護③</p> <p>11.12 自立に向けた移動の介護④</p> <p>13.14 自立に向けた移動の介護⑤</p> <p>15.16 自立に向けた身支度の介護①</p> <p>17.18 自立に向けた身支度の介護②</p> <p>19.20 自立に向けた身支度の介護③</p> <p>21.22 自立に向けた食事の介護①</p> <p>23.24 自立に向けた食事の介護②</p> <p>25.26 自立に向けた食事の介護③</p> <p>27.28 前期復習</p> <p>29.30 定期試験</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 ・生活支援技術Ⅱ(中央法規) ・作成したプリント		〔単位認定の方法及び基準〕 試験成績、確認テスト、課題、授業態度、出席要件等を加味し総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術ⅡB	授業の種類 講義・ 演習 ・実習		授業担当者 伊藤奈津希
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活に生かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、清潔保持、排せつ、家事、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 ・生活の豊かさや心身の活性化⁷、自立支援のための居住空間の整備について基礎的な知識を理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1.2 ガイダンス・前期復習</p> <p>3.4 自立に向けた入浴・清潔保持の介護①</p> <p>5.6 自立に向けた入浴・清潔保持の介護②</p> <p>7.8 自立に向けた入浴・清潔保持の介護③</p> <p>9.10 自立に向けた入浴・清潔保持の介護④</p> <p>11.12 自立に向けた排せつの介護①</p> <p>13.14 自立に向けた排せつの介護②</p> <p>15.16 自立に向けた排せつの介護③</p> <p>17.18 自立に向けた排せつの介護④</p> <p>19.20 終末期ケア</p> <p>21.22 福祉用具①</p> <p>23.24 福祉用具②</p> <p>25.26 後期復習</p> <p>27.28 定期試験</p> <p>29.30 振り返り</p>			
[使用テキスト・参考文献] ・生活支援技術Ⅱ(中央法規) ・作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 試験成績、確認テスト、課題、授業態度、出席要件等を加味し総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術ⅢB	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 演習 ・ ・ ・ 実習 </div>		授業担当者 伊藤 奈津希 高木 彩可 小池 綾子 渡辺 志朗
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部障害がある利用者への生活支援技術を習得することを目的とする。 ・対象者のその人らしさを尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術とその留意点について学ぶ。 ・安全面に配慮した介護技術や知識について学習する。 ・リハビリテーションの理念・役割を理解できる。主要な疾患に対するリハビリテーションの内容を理解できる。 ・リハビリテーションと介護の関係を理解し、自分の言葉で説明できる。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・グループワークを交え、内部障害がある対象者の特徴や介護における観察の視点を学ぶ。 ・利用者の身体状態・状況に応じた介護技術とはなにか、他職種の役割と協働について学ぶ。 ・リハビリテーションの基本、障害別リハビリテーションを理解し、介護に活かすことが出来るように知識を身に付ける。 <p>【授業終了時の達成課題(到着目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部障害がある利用者の特徴を踏まえた介護を理解することができる。 ・利用者の幸せとは何かを的確にとらえる力と、個性のある自立や自律、社会参加に向けた生活支援ができるようになる。 ・リハビリテーションの理念、役割、基本的考え方が分かる。主要な疾患に関するリハビリテーションの内容を理解し、ADL支援に活用できる。 ・リハビリテーションと介護の関係を理解し、自立支援の考え方について自分の意見をもつことができる。 			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>① オリエンテーション 心機能障害に応じた介護について</p> <p>② 呼吸機能障害に応じた介護について</p> <p>③ 腎機能障害に応じた介護について</p> <p>④ 膀胱・直腸機能障害に応じた介護について</p> <p>⑤ 小腸機能障害に応じた介護について</p> <p>⑥ HIVによる免疫機能障害に応じた介護について</p> <p>⑦ 肝機能障害に応じた介護について・まとめ</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>⑧ 知的障害に応じた介護</p> <p>⑨ 精神障害に応じた介護</p> <p>⑩ 高次脳機能障害に応じた介護</p> <p>⑪ 発達障害に応じた介護①</p> <p>⑫ 難病に応じた介護(ALS,パーキンソン)</p> <p>⑬ 難病に応じた介護(悪性関節リウマチ、筋ジストロフィー)</p> <p>⑭ 振り返り・知識の再確認</p> <p>⑮ まとめ</p>		<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>⑯ リハビリテーションの理念・リハビリテーションが目指すもの</p> <p>⑰ リハビリテーションの最近の動向・リハビリテーションの領域と役割</p> <p>⑱ ICFとリハビリテーション</p> <p>⑲ リハビリテーション評価と介護アセスメント①</p> <p>⑳ リハビリテーション評価と介護アセスメント②</p> <p>㉑ 脳血管疾患に対するリハビリテーション</p> <p>㉒ 運動器疾患に対するリハビリテーション</p> <p>㉓ 農政まひ・小児疾患に対するリハビリテーション</p> <p>㉔ 難病に対するリハビリテーション</p> <p>㉕ 内部疾患に対するリハビリテーション</p> <p>㉖ 補装具・日常生活用具の種類と適応</p> <p>㉗ リハビリテーションからみた基本動作の考え方</p> <p>㉘ 自立支援と介護予防・地域連携</p> <p>㉙ まとめ</p> <p>㉚ 試験</p>	
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p style="text-align: center;">最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p style="text-align: center;">試験成績・課題及び意欲、提出物出席要件等を加味 総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程 I	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">講義</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">演習</div> 実習 </div>		授業担当者 土屋 奈穂子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義目的を理解し、介護過程の全体像を把握する。 ・ICFを理解し、客観的・多角的な視点から利用者をアセスメントする必要性を学ぶことができる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援において客観的かつ多角的な視点での観察力や考察力の必要性を学ぶ。 ・事例を通じ、アセスメントに必要な情報収集方法や情報の関連付けを理解する。 ・個人ワークやグループワークを通じ、様々な視点や意見に触れ理解を深めることができる。 <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義目的を理解し、ICFの視点から客観的・多角的なアセスメントが出来る。 ・ワークや事例検討を通じて利用者の生活課題を導き出すことができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・介護過程とは 2 介護過程の意義・目的・全体像の把握 3 ICFの理解 4 アセスメントとは 事例ワーク 5 アセスメントとは 事例ワーク 6 情報収集の種類と方法・コミュニケーション 7 情報収集の種類と方法・コミュニケーション 8 情報収集の種類と方法・コミュニケーション 9 介護過程の展開・アセスメントの思考方法 10 介護過程の展開・アセスメントの思考方法 11 介護過程の展開・アセスメントの思考方法 12 介護過程の展開・アセスメントの思考方法 13 介護過程の展開・アセスメントの思考方法 14 定期試験・定期試験解説 15 まとめ・前期授業振り返り・後期授業に向けて 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p style="text-align: center;">中央法規出版 介護過程</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>定期試験結果 意欲、態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> 講義 演習 実習 </div>		授業担当者 土屋 奈穂子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・介護過程の意義目的を理解し、介護過程の全体像を把握する。 ・ICFを理解し、客観的・多角的な視点から利用者をアセスメントする必要性を学ぶことができる。			
[授業全体の内容の概要] ・利用者支援において客観的かつ多角的な視点での観察力や考察力の必要性を学ぶ。 ・事例を通じ、アセスメントに必要な情報収集方法や情報の関連付けを理解する。 ・個人ワークやグループワークを通じ、様々な視点や意見に触れ理解を深めることができる。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・介護過程の意義目的を理解し、ICFの視点から客観的・多角的なアセスメントが出来る。 ・ワークや事例検討を通じて利用者の生活課題を導き出すことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1 前期振り返り /Bさん事例概要 2 Bさん事例 情報収集/情報分析・情報の関連付け 3 Bさん事例 情報分析・情報の関連付け 4 Bさん事例 課題の明確化・生活課題の捉え方 5 事例② 情報収集(グループワーク) 6 事例② 情報分析・情報の関連付け 7 事例② 情報分析・情報の関連付け 8 事例② 課題の明確化・生活課題の捉え方 9 事例③ 情報収集(グループワーク) 10 事例③ 情報分析・情報の関連付け 11 事例③ 情報分析・情報の関連付け 12 事例③ 課題の明確化・生活課題の捉え方 13 事例③ 振り返り・まとめ 14 定期試験・解説 15 振り返り・後期まとめ・次年度に向けて			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護過程		[単位認定の方法及び基準] 定期試験結果 意欲、態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px;"> 講義 演習 実習 </div>		授業担当者 土屋 奈穂子
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに応じた計画立案・実施・評価を通じて介護過程の一連の流れを理解できる。 ・自身のアセスメントを振り返り、客観的事実を基に多角的に情報を得て分析する必要性と重要性を理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習対象者のアセスメント振り返りを行い、修正・改善点を見出す。 ・対象者の計画立案・実施・評価の流れを通じ、介護過程の一連の流れを理解することができる。 <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個別性に応じた介護過程の展開を理解し実践できる 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・介護過程Ⅲについて/前年度の振り返り 2 介護計画の立案について 3 介護実習2 対象者のアセスメント見直し 4 介護実習2 対象者のアセスメント見直し 5 介護実習2 対象者の計画立案 6 介護実習2 対象者の計画立案 7 介護実習2 対象者の計画立案 8 介護計画 実施について 9 介護計画 実施・実施準備 10 介護計画 経過記録記入方法 11 計画実施後の評価 12 計画実施後の評価 13 評価を踏まえた介護計画の修正 14 評価を踏まえた介護計画の修正と再実施 15 事例① 利用者の状況・状態に応じた介護過程展開 		<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 16 事例① 情報収集・分析 17 事例① 情報分析・関連付け・統合化 18 事例① 課題明確化 19 事例① 介護計画立案 20 事例① 介護計画立案 21 事例① 実施・評価 22 事例① 実施・評価 / 振り返り 23 事例② 情報収集 24 事例② 情報収集・関連付け 25 事例② 情報関連付け・統合・課題の明確化 26 事例② 計画立案 27 事例② 実施・評価・計画修正 28 事例② 評価・計画修正後の再実施 29 定期試験 30 振り返り 後期まとめ・介護過程Ⅳに向けて 	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p style="text-align: center;">中央法規出版 介護過程</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>定期試験結果 意欲、態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅳ	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px;"> 講義 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 土屋 奈穂子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ケアマネジメントの全体像を理解し、ケアプランと個別援助計画の関係性を理解する。 ・利用者支援における多職種協働・連携の重要性と、チームにおける介護福祉士の役割を理解する。			
[授業全体の内容の概要] ・ケアマネジメントの目的や流れを知り、個別援助計画との関係性を理解する。 ・チームケアの必要性・重要性を理解し、チーム内での介護福祉士の役割を理解する。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・多職種連携・協働の意義・目的を理解し介護福祉士のチームにおける役割を理解することができる。 ・利用者の個別性に応じた介護過程展開の重要性を理解することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1 ガイダンス ・介護過程とチームアプローチ・介護過程とケアマネジメント 2 介護過程とケアマネジメントの関係性① ケアマネジメントとは 3 介護過程とケアマネジメントの関係性② ケアマネジメントの流れ 4 介護過程とケアマネジメントの関係性③ ケアマネジメントの流れ 5 介護過程とケアマネジメントの関係性④ ケアプランと介護過程・個別援助計画 6 介護過程とケアマネジメントの関係性⑤ チームとして介護過程を展開する意義 7 介護過程とケアマネジメントの関係性⑤ チームとして介護過程を展開する意義・ケアカンファレンス 8 チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性① 9 チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性② 10 チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性③ 11 利用者の生活と介護過程の展開① 12 利用者の生活と介護過程の展開② 13 利用者の生活と介護過程の展開③ 14 定期試験 15 振り返り・まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護過程		[単位認定の方法及び基準] 定期試験結果 意欲、態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習 I	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 土屋 奈穂子 伊藤 奈津希 菅谷 由美子 高木 彩可 小池 綾子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・実習の教育効果を上げるため、介護実習前に介護技術の確認を行う。 ・実習先のための計画・準備を進めるなど、実習に対する総合的な学習とする。			
[授業全体の内容の概要] ・実習のテキストや実習の手引きを参考に、介護実習全般について学ぶ。 ・実習方法や記録の書き方を学習する。 ・施設の理解や介護現場について学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ・介護実習1に必要な書類の作成や事前学習・準備ができる。 ・課題・目標を明確にして主体的に実習に取り組めるように準備する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1 ガイダンス/実習の概要 2 実習施設の理解① 3 実習施設の理解② 4 実習の注意事項 5 接遇について/事前電話の仕方について 6 実習日誌の書き方 7 実習日誌の書き方/身だしなみチェック 8 配属発表/実習先の行き方確認/施設概要 9 配属発表/実習先の行き方確認/施設概要 10 個人票作成 11 個人票作成 12 個人票完成を施設に届ける(経路確認) 13 個人票完成を施設に届ける(経路確認) 14 期末試験(見極めテスト) 15 振り返り・まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護総合演習・介護実習 実習の手引き・作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、提出物出席要件等を加味 総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習Ⅱ	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 土屋 奈穂子 伊藤 奈津希 菅谷 由美子 高木 彩可 小池 綾子																														
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の教育効果を上げるため、介護実習前に介護技術の確認を行う。 ・実習1の振り返り、自己課題を明確にして報告会で学びを共有する。 ・報告会の準備、発表も含めて、実習に対する総合的な学習とする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習のテキストや実習の手引きを参考に、介護実習全般について学び、実習方法や記録の書き方を学習する。 ・利用者との関わりについてプロセスレコードを作成して、実習1の振り返りを行う。 ・実習2に向けた書類作成や事前学習を行う。 <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ・介護実習2において、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。 																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%; text-align: center;">1</td><td>介護実習1 事前連絡</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2</td><td>介護実習1 ファイル作成</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3</td><td>介護実習1 事前指導</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4</td><td>介護実習1 事前指導</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5</td><td>介護実習1 事後指導</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6</td><td>介護実習1 事後指導</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">7</td><td>介護実習1 報告会</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">8</td><td>介護実習1 報告会</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">9</td><td>介護実習2 配属発表</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">10</td><td>介護実習2 個人票作成</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">11</td><td>介護実習2 事前連絡</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">12</td><td>介護実習2 事前指導</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">13</td><td>介護実習2 帰校日</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">14</td><td>介護実習2 帰校日</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">15</td><td>介護実習2 事後指導</td></tr> </table>				1	介護実習1 事前連絡	2	介護実習1 ファイル作成	3	介護実習1 事前指導	4	介護実習1 事前指導	5	介護実習1 事後指導	6	介護実習1 事後指導	7	介護実習1 報告会	8	介護実習1 報告会	9	介護実習2 配属発表	10	介護実習2 個人票作成	11	介護実習2 事前連絡	12	介護実習2 事前指導	13	介護実習2 帰校日	14	介護実習2 帰校日	15	介護実習2 事後指導
1	介護実習1 事前連絡																																
2	介護実習1 ファイル作成																																
3	介護実習1 事前指導																																
4	介護実習1 事前指導																																
5	介護実習1 事後指導																																
6	介護実習1 事後指導																																
7	介護実習1 報告会																																
8	介護実習1 報告会																																
9	介護実習2 配属発表																																
10	介護実習2 個人票作成																																
11	介護実習2 事前連絡																																
12	介護実習2 事前指導																																
13	介護実習2 帰校日																																
14	介護実習2 帰校日																																
15	介護実習2 事後指導																																
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p style="text-align: center;">中央法規出版 介護総合演習・介護実習 実習の手引き・作成したプリント</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">試験成績・課題及び意欲、提出物出席要件等を加味 総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)</p>																															

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習Ⅲ	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 演習 実習 </div>		授業担当者 土屋 奈穂子 伊藤 奈津希 菅谷 由美子 高木 彩可 小池 綾子																														
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習2の課題であるアセスメントを振り返り、実習報告会で発表し体験を共有する。 ・介護過程の展開を実践するためのアセスメント方法を学び直す。 ・介護実習3について実習前の準備ができる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習2で行ったアセスメントを報告会にて発表する。 ・介護過程実践の準備として発表会において計画を実施する。 ・介護実習3について実習前の準備ができる。 <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ・介護実習3において、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。 																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>2</td><td>介護実習2 報告会資料の作成</td></tr> <tr><td>3</td><td>介護実習2 報告会資料の作成</td></tr> <tr><td>4</td><td>介護実習2 報告会資料の作成</td></tr> <tr><td>5</td><td>介護実習2 報告会リハーサル</td></tr> <tr><td>6</td><td>介護実習2 報告会リハーサル</td></tr> <tr><td>7</td><td>介護実習2 報告会</td></tr> <tr><td>8</td><td>介護実習2 報告会</td></tr> <tr><td>9</td><td>介護実習4-②、3 配属発表</td></tr> <tr><td>10</td><td>介護実習4-②、3 施設概要</td></tr> <tr><td>11</td><td>介護実習4-②、3 個人票作成</td></tr> <tr><td>12</td><td>介護実習4-②、3 個人票完成</td></tr> <tr><td>13</td><td>介護実習4-②、3 事前連絡 / 実習ファイル作成</td></tr> <tr><td>14</td><td>定期試験 筆記(介護過程・接遇マナー)</td></tr> <tr><td>15</td><td>事前指導</td></tr> </table>				1	オリエンテーション	2	介護実習2 報告会資料の作成	3	介護実習2 報告会資料の作成	4	介護実習2 報告会資料の作成	5	介護実習2 報告会リハーサル	6	介護実習2 報告会リハーサル	7	介護実習2 報告会	8	介護実習2 報告会	9	介護実習4-②、3 配属発表	10	介護実習4-②、3 施設概要	11	介護実習4-②、3 個人票作成	12	介護実習4-②、3 個人票完成	13	介護実習4-②、3 事前連絡 / 実習ファイル作成	14	定期試験 筆記(介護過程・接遇マナー)	15	事前指導
1	オリエンテーション																																
2	介護実習2 報告会資料の作成																																
3	介護実習2 報告会資料の作成																																
4	介護実習2 報告会資料の作成																																
5	介護実習2 報告会リハーサル																																
6	介護実習2 報告会リハーサル																																
7	介護実習2 報告会																																
8	介護実習2 報告会																																
9	介護実習4-②、3 配属発表																																
10	介護実習4-②、3 施設概要																																
11	介護実習4-②、3 個人票作成																																
12	介護実習4-②、3 個人票完成																																
13	介護実習4-②、3 事前連絡 / 実習ファイル作成																																
14	定期試験 筆記(介護過程・接遇マナー)																																
15	事前指導																																
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p style="text-align: center;">中央法規出版 介護総合演習・介護実習 実習の手引き・作成したプリント</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">試験成績・課題及び意欲、提出物出席要件等を加味 総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)</p>																															

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習IV	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 演習 ・ ・ ・ 実習 </div>		授業担当者 土屋 奈穂子 伊藤 奈津希 菅谷 由美子 高木 彩可 小池 綾子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・介護実習3においてのまとめができ、発表することができる。 ・体験を共有することで、自己を振り返り、就職へ向けての方向づけをする。			
[授業全体の内容の概要] ・事例報告会のための記録をまとめ、発表原稿を作成する。 ・事例報告会で発表し、体験を共有する。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・介護実習3終了後のまとめと事例報告会の原稿を作成し、発表する。 ・事例報告会で発表し、体験を共有する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1 介護実習3 帰校日 2 介護実習3 帰校日 3 介護実習3 帰校日 4 介護実習3 帰校日 5 介護実習3 事後指導 6 介護実習3 事後指導 7 介護実習3 報告会資料作成 8 介護実習3 報告会資料作成 9 介護実習3 報告会資料作成 10 介護実習3 報告会資料作成 11 介護実習3 報告会資料作成 12 介護実習3 報告会資料作成 13 介護実習3 報告会リハーサル 14 介護実習3 報告会 15 介護実習3 報告会			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護総合演習・介護実習 実習の手引き・作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、提出物出席要件等を加味 総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護実習1	授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 土屋 奈穂子 伊藤 奈津希 菅谷 由美子 高木 彩可 小池 綾子
授業の回数	時間数(単位数) 90時間(2単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 利用者との信頼関係の築き方と適切なコミュニケーション技法を学ぶ。 居宅サービスの概要を理解し、介護福祉士としての専門的な役割を学ぶ。 利用者の尊厳を尊重しながら、基本的な日常生活援助の方法を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実習に臨む姿勢を身につけるとともに、比較的要介護度の低い利用者が利用する居宅サービス等の場において、利用者が望む生活とはどのようなものかを、利用者の言葉を通じて理解する学びとする。 さらに、この学びを記録として残し、他の学生と感じ方を共有することで、受容と共感を深める実践的な学びとする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・利用者の尊厳を尊重し、居宅サービスにおける介護福祉士の役割を理解できる。 ・傾聴・受容・共感などのコミュニケーション技法を用いて、利用者との信頼関係を構築できる。 ・利用者の望む生活を把握し、基本的な日常生活援助を安全に実践できる。 ・実践の過程を記録し、振り返りを行うことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 実習生として実習に臨む姿勢を学ぶことができる b. 利用者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる c. 利用者の望む生活と環境を理解できる d. 介護福祉士の役割を知る e. 学びを記録することができる f. 利用者の生活を支える多職種を学び、多職種連携を知る 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 実習評価票、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価する 基準：可(60点以上)を合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護実習2	授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 土屋 奈穂子 伊藤 奈津希 菅谷 由美子 高木 彩可 小池 綾子
授業の回数	時間数(単位数) 150時間(3単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護過程を展開し、対象者の生活課題やニーズを明確にする。 入所サービスの特徴や運営の仕組みを理解し、介護福祉士としての役割を学ぶ。 利用者の心身の状態に応じた適切な日常生活支援を実践的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 施設利用者の生活の場を理解し、利用者への理解を深めるとともに、利用者の思いを実現する学びとする。 また、ICF(国際生活機能分類)の視点に基づき、利用者の状態や状況に応じた適切な介護技術を実践する学びとする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・ICFの視点に基づいて介護過程を展開できる。 ・入所サービスにおける生活の場と、利用者の状態・思いを踏まえて生活課題やニーズを明確にできる。 ・介護福祉士としての役割を理解できる。 ・心身の状態に応じた適切な日常生活支援を実践できる。 ・実践の内容を記録し、振り返りができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 施設の役割を確認する学び b. 施設と利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ c. 施設利用者の生活の場を知る d. 利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する e. 利用者の思いを実現する具体的な方法論を知る f. 介護過程(情報収集～情報分析まで)を展開できる g. 利用者がこれまで送ってきた生活や習慣を尊重し、その人らしい生活を途切れることなく維持できるよう支援することを知る h. 介護福祉士の役割を知る i. 学びを記録することができる j. 利用者を受容・共感することができる姿勢を理解する 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 実習評価票、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価する 基準：可以上(60点以上)を合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護実習3	授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 土屋 奈穂子 伊藤 奈津希 菅谷 由美子 高木 彩可 小池 綾子
授業の回数	時間数(単位数) 210時間(5単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 対象者のニーズに基づいて介護過程を展開し、計画の立案・実施・評価ができる。 多職種との連携やチームケアを通して、介護福祉士としての専門的役割と責任を理解する。 利用者の心身状態に応じた日常生活支援を、安全かつ根拠をもって実践する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 施設利用者の生活の場を理解し、利用者への理解を深めるとともに、利用者の思いを実現する学びとする。 また、ICF(国際生活機能分類)の視点に基づき、利用者の状態や状況に応じた適切な介護技術を実践する学びとする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・ICFの視点に基づき、介護過程を展開できる。 ・施設における生活の場と、利用者の心身の状態・ニーズを踏まえて、適切な計画を立案できる。 ・画に基づき、安全かつ根拠のある日常生活支援を実践し、評価できる。 ・多職種との連携を通して、介護福祉士としての役割と責任を理解できる。 ・実践内容を記録し、振り返りができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 施設の役割と地域における役割を確認する学び b. 施設と利用者・家族・地域との連携関係を学ぶ c. 利用者の生活を支える多職種を知り、多職種協働の理解を深める d. 利用者の状態や状況に対応できる介護技術を実践する e. 利用者の思いを実現する具体的な方法論を知る f. 介護過程を展開できる g. 利用者がこれまで送ってきた生活や習慣を尊重し、その人らしい生活を途切れることなく維持できるよう支援することを知る h. 介護福祉士の役割を知る i. 学びを記録することができる j. 利用者を受容・共感することができる姿勢を理解する 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 実習評価票、実習日誌記載内容及び巡回指導時の指導内容で評価する 基準：可(60点以上)を合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) ところとからだのしくみ I	授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 菅谷 由美子		
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能を学習する。 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人体の構造や機能についての基本的な知識を学ぶ。 意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、日常生活動作との関連について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 日常生活動作に関連したところとからだのしくみが理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ①②「健康」とは何か・移動に関連したからだのしくみ ③④移動に関連したからだのしくみ ⑤移動に関連したところとからだのしくみ ⑥移動に関連したところとからだのしくみ ⑦移動に関連したところとからだのしくみ ⑧移動に関連したところとからだのしくみ ⑨移動に関連したところとからだのしくみ ⑩身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑪身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑫身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑬身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑭身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑮身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑯身じたくに関連したところとからだのしくみ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ⑰⑱食事に関連したところとからだのしくみ ⑲食事に関連したところとからだのしくみ ⑳㉑食事に関連したところとからだのしくみ ㉒清潔に関連したところとからだのしくみ ㉓清潔に関連したところとからだのしくみ ㉔清潔に関連したところとからだのしくみ ㉕清潔に関連したところとからだのしくみ ㉖介護福祉士に必要な薬の知識 ㉗試験対策① ㉘試験対策② ㉙定期試験 ㉚試験のふりかえり・まとめ </td> </tr> </table>				①②「健康」とは何か・移動に関連したからだのしくみ ③④移動に関連したからだのしくみ ⑤移動に関連したところとからだのしくみ ⑥移動に関連したところとからだのしくみ ⑦移動に関連したところとからだのしくみ ⑧移動に関連したところとからだのしくみ ⑨移動に関連したところとからだのしくみ ⑩身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑪身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑫身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑬身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑭身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑮身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑯身じたくに関連したところとからだのしくみ	⑰⑱食事に関連したところとからだのしくみ ⑲食事に関連したところとからだのしくみ ⑳㉑食事に関連したところとからだのしくみ ㉒清潔に関連したところとからだのしくみ ㉓清潔に関連したところとからだのしくみ ㉔清潔に関連したところとからだのしくみ ㉕清潔に関連したところとからだのしくみ ㉖介護福祉士に必要な薬の知識 ㉗試験対策① ㉘試験対策② ㉙定期試験 ㉚試験のふりかえり・まとめ
①②「健康」とは何か・移動に関連したからだのしくみ ③④移動に関連したからだのしくみ ⑤移動に関連したところとからだのしくみ ⑥移動に関連したところとからだのしくみ ⑦移動に関連したところとからだのしくみ ⑧移動に関連したところとからだのしくみ ⑨移動に関連したところとからだのしくみ ⑩身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑪身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑫身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑬身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑭身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑮身じたくに関連したところとからだのしくみ ⑯身じたくに関連したところとからだのしくみ	⑰⑱食事に関連したところとからだのしくみ ⑲食事に関連したところとからだのしくみ ⑳㉑食事に関連したところとからだのしくみ ㉒清潔に関連したところとからだのしくみ ㉓清潔に関連したところとからだのしくみ ㉔清潔に関連したところとからだのしくみ ㉕清潔に関連したところとからだのしくみ ㉖介護福祉士に必要な薬の知識 ㉗試験対策① ㉘試験対策② ㉙定期試験 ㉚試験のふりかえり・まとめ				
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 ところとからだのしくみ、模擬問題集、過去問解説集 西東社 カラー版・書き込み式で覚える！解剖ワーク BOOK</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果、出席要件等を考慮し、総合評価とします。 (基準:60点以上を合格)</p>			

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) ころとからだのしくみⅡ	授業の種類 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 菅谷 由美子																														
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能の理解のもと、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人体の構造や機能についての基本的な知識をふまえ、意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、それらが日常生活動作にどのように関連してくるのかを認識する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 日常生活動作に関連したころとからだのしくみが理解できる。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">①オリエンテーション・排泄に関連したしくみ</td> <td>排尿のしくみ／泌尿器</td> </tr> <tr> <td>②排泄に関連したしくみ</td> <td>排便のしくみ／消化器</td> </tr> <tr> <td>③排泄に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(排尿)</td> </tr> <tr> <td>④排泄に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(排便)</td> </tr> <tr> <td>⑤排泄に関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応・医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>⑥休息・睡眠に関連したしくみ</td> <td>休息・睡眠のしくみ</td> </tr> <tr> <td>⑦休息・睡眠に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>⑧人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>人生の最終段階に関する「死」のとらえ方</td> </tr> <tr> <td>⑨人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>終末期から危篤状態、死後のからだの理解</td> </tr> <tr> <td>⑩人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>終末期における医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>⑪人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>「死」に対するころの理解①</td> </tr> <tr> <td>⑫人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>「死」に対するころの理解②</td> </tr> <tr> <td>⑬試験対策</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑭定期試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑮試験の振り返り・まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				①オリエンテーション・排泄に関連したしくみ	排尿のしくみ／泌尿器	②排泄に関連したしくみ	排便のしくみ／消化器	③排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(排尿)	④排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(排便)	⑤排泄に関連したしくみ	変化の気づきと対応・医療職との連携	⑥休息・睡眠に関連したしくみ	休息・睡眠のしくみ	⑦休息・睡眠に関連したしくみ	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響	⑧人生の最終段階のケアに関連したしくみ	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	⑨人生の最終段階のケアに関連したしくみ	終末期から危篤状態、死後のからだの理解	⑩人生の最終段階のケアに関連したしくみ	終末期における医療職との連携	⑪人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」に対するころの理解①	⑫人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」に対するころの理解②	⑬試験対策		⑭定期試験		⑮試験の振り返り・まとめ	
①オリエンテーション・排泄に関連したしくみ	排尿のしくみ／泌尿器																																
②排泄に関連したしくみ	排便のしくみ／消化器																																
③排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(排尿)																																
④排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(排便)																																
⑤排泄に関連したしくみ	変化の気づきと対応・医療職との連携																																
⑥休息・睡眠に関連したしくみ	休息・睡眠のしくみ																																
⑦休息・睡眠に関連したしくみ	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響																																
⑧人生の最終段階のケアに関連したしくみ	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方																																
⑨人生の最終段階のケアに関連したしくみ	終末期から危篤状態、死後のからだの理解																																
⑩人生の最終段階のケアに関連したしくみ	終末期における医療職との連携																																
⑪人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」に対するころの理解①																																
⑫人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」に対するころの理解②																																
⑬試験対策																																	
⑭定期試験																																	
⑮試験の振り返り・まとめ																																	
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 ころとからだのしくみ、模擬問題集、過去問解説集 西東社 カラー版・書き込み式で覚える！解剖ワークBOOK</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価とします。 (基準:60点以上を合格)</p>																																

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) ころとからだのしくみⅢ	授業の種類 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: fit-content; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 菅谷 由美子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能の理解のもと、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人体の構造や機能についての基本的な知識をふまえ、意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、それらが日常生活動作にどのように関連してくるのかを認識する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 日常生活動作に関連したころとからだのしくみが理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>①オリエンテーション・排泄に関連したしくみ 排尿のしくみ／泌尿器</p> <p>②排泄に関連したしくみ 排便のしくみ／胃・小腸・大腸</p> <p>③排泄に関連したしくみ 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(排尿)</p> <p>④排泄に関連したしくみ 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(排便)</p> <p>⑤排泄に関連したしくみ 変化の気づきと対応・医療職との連携</p> <p>⑥休息・睡眠に関連したしくみ 休息・睡眠のしくみ</p> <p>⑦休息・睡眠に関連したしくみ 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響</p> <p>⑧人生の最終段階のケアに関連したしくみ 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方</p> <p>⑨人生の最終段階のケアに関連したしくみ 終末期から危篤状態、死後のからだの理解</p> <p>⑩人生の最終段階のケアに関連したしくみ 終末期における医療職との連携</p> <p>⑪人生の最終段階のケアに関連したしくみ 「死」に対するころの理解①</p> <p>⑫人生の最終段階のケアに関連したしくみ 「死」に対するころの理解②</p> <p>⑬試験対策</p> <p>⑭定期試験</p> <p>⑮試験の振り返り・まとめ</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 ころとからだのしくみ、模擬問題集、過去問解説集 西東社 カラー版・書き込み式で覚える！解剖ワークBOOK</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価とします。 (基準：60点以上を合格)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I	授業の種類 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80px; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 太田 雅巳
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・人間の成長発達について理解する。発達とは何か、発達の観点から老化に伴う心身の変化を理解しながら知識を学ぶ。老年期の全体像を理解し、人生観・死生観について考えることができる。			
[授業全体の内容の概要] ・身体的機能・精神機能・能力を加齢による変化や生活への影響について理解する。基礎的知識だけでなく自分自身の意見や言葉で表現できるよう授業をすすめる。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] ・成長発達の理解ができる ・老年期(老化)について理解できる ・日常生活への影響について理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション: 老年期とは何か 2 成長発達の考え方(心理を理解する) 3 ライフステージにより発達と法則 4 成長発達に影響する要因とは 5 発達課題・発達理論 6 心身の発達: 身体的・心理的発達 7 社会的機能・役割 8 老年期を考える: 老化 9 老年の発達 10 老年の課題 11 発達障害 12 老年期: 身体的変化・機能変化 13 老年期: 社会的変化と影響 14 試験 15 授業 振り返りを行い理解を深める ※老年期の疾患・症状などの内容が多くあり、科目別の学習ではなく横断的に理解できるよう授業内容を組み合わせる			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版(発達と老化の理解)		[単位認定の方法及び基準] 総合評価 試験60%を合格 授業態度(リアクション)・提出物を加点する	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 II	授業の種類 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80px; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 太田 雅巳
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・発達と老化の理解 I で学んだ知識を高齢者の症状や疾病・疾患と結びつけることができる。心理・身体的特徴を理解し全体像を理解できる。 [授業全体の内容の概要] ・高齢者に多い病気とその留意点について学ぶ [授業終了時の達成課題(到着目標)] ・高齢者の健康について理解できる ・老年期の病気について理解しケアにつなげることができる ・病気が高齢者の生活へ与える影響について理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション老化により病気 2 身体機能:骨格系・筋系、脳神経系、感覚器 3 身体機能:循環器・呼吸器・消化器 4 身体機能:腎泌尿器・内分泌・代謝免疫 5 高齢者の健康 6 症状の特徴 疾患の特徴 7 留意点:骨格・筋敬 8 留意点:脳神経 9 留意点:循環器・呼吸器 10 留意点:皮膚・感覚器 11 留意点:腎泌尿器・内分泌代謝 12 留意点:口腔疾患・悪性新生物・感染症 13 留意点:精神疾患 14 試験 15 振り返り:多職種連携・まとめ ※疾患・症状などの内容が多くあり、科目的に理解する知識が多い。専門的な理解ではなく全体像をつかめるよう授業内容を組み合わせる。			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版(発達と老化の理解)		[単位認定の方法及び基準] 総合評価 試験60%を合格 授業態度(リアクション)・提出物を加点する	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 太田 雅巳
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・認知症に関する基礎知識(病態生理・症状)を理解できる [授業全体の内容の概要] ・認知症の全体像を理解できる ・基礎的な知識を理解できる ・認知症の症状に合わせた対応が理解できる [授業終了時の達成課題(到着目標)] ・認知症の全体像を理解できる ・認知症の症状に合わせた対応や関りができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 認知症とは 高齢者の現状 2 病態生理(脳) 3 認知症や障害者の心理 ① 4 認知症や障害者の心理 ② 5 認知症の中核症状の理解 6 生活障害とは 7 BPSDの理解① 8 BPSDの理解② 9 認知症治療とケア 10 認知症予防 11 認知症ケアの理念と視点 12 環境を取り巻く現状 13 老年期における障害と認知症 14 試験 15 振り返り まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版(介護福祉士養成講座)		[単位認定の方法及び基準] 総合評価 試験60%を合格 授業態度(リアクション)・提出物を加算する	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 II	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 太田 雅巳
授業の回数 <div style="text-align: center;">15回</div>	時間数(単位数) <div style="text-align: center;">30時間(2単位)</div>	学年・時期 <div style="text-align: center;">1年・後期</div>	必修・選択 <div style="text-align: center;">必修</div>
[授業の目的・ねらい] ・認知症の理解 I で学んだ、認知症の症状、基礎知識をいかしケアの提供や支援方法を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・老年期における認知症・障害を横断的に学ぶ。ケアを提供する介護者だけでなく当事者との関わりを具体的事例から理解を深める。 [授業終了時の達成課題(到着目標)] ・認知症の全体像を理解できる。 ・実習等で認知症の症状に合わせた対応や関りができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 認知症の理解 I (振り返り) 2 コミュニケーション(老年期) 3 認知症や障害者へのケア ① 4 認知症や障害者へのケア ② 5 多職種連携からのアプローチ方法 6 家族支援 7 行政からのサポート 8 ターミナルケアと介護 9 認知症への環境とは 10 介護福祉士への支援や関り 11 地域連携 12 試験 13 振り返り 14 認知症ケア 15 まとめ(認知症の理解 I ・認知症の理解 II)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版(介護福祉士養成講座)		[単位認定の方法及び基準] 総合評価 試験60%を合格 授業態度(リアクション)・提出物を加点する	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解 I	授業の種類 <div style="text-align: center;"> 講義 ・ 演習 ・ 実習 </div>		授業担当者 太田 雅巳
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 障害者の身体的機能・心理、日常生活に関する知識を学び理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害の基礎的知識を学び、障害者福祉(社会福祉)の理念を理解でき社会全体で考えることができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 基本理念。法律や全体像(定義)を理解できる。 障害者(児)家族のニーズの理解ができ、支援の方法を考えることができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の理解(ICFの考え方) 2 概念: 法律・定義・歴史など 3 基本理念(ノーマライゼーション・リハビリテーション・合理的配慮)の理解 4 障害者差別解消法: 障害者福祉 5 視覚障害・聴覚・言語・重複(特別支援を含む)① 6 視覚障害・聴覚・言語・重複(特別支援を含む)② 7 視覚障害・聴覚・言語・重複(特別支援を含む)③ 8 運動機能障害(肢体不自由)の理解 9 知的障害 10 精神疾患(障害) 11 発達障害 12 高次脳機能障害: 脳疾患 13 支援・多職種連携 14 試験 15 授業(テスト)振り返りを行い理解を深める <p>※障害の理解は疾患・症状などの内容が多くあり、科目別の学習ではなく横断的に理解できるよう授業内容を組み合わせる</p>			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版(障害の理解)		[単位認定の方法及び基準] 総合評価 試験60%を合格 授業態度(リアクション)・提出物を加点する	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解 II	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">講義</div> ・ <div>演習</div> ・ <div>実習</div> </div>		授業担当者 太田 雅巳
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・障害の理解 I から障害の II へ知識理解を深める ・障害の分類だけでなく多面的に理解できる [授業全体の内容の概要] ・障害の理解 I で学んだ知識を障害者(児)・家族への支援へつなげることができる [授業終了時の達成課題(到着目標)] ・障害による心身への影響・心理的变化を総合的に理解できる ・障害者(児)家族のニーズの理解ができ、支援の方法を考えることができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 障害の理解 I の振り返りとオリエンテーション 2 障害別理解: 基礎的な理解と特性 3 運動機能障害① 4 運動機能障害② 5 呼吸器障害 6 循環器障害 7 腎障害 8 消化器系障害 9 膀胱・直腸障害 10 肝機能障害: 肝胆臓を含む 11 心身障害: 重症心身障害 12 難病 13 免疫機能障害 14 試験 15 振り返り まとめ ※障害の理解は疾患・症状などの内容が多くあり、科目別の学習ではなく横断的に理解できるよう授業内容を組み合わせる			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版(障害の理解)		[単位認定の方法及び基準] 総合評価 試験60%を合格 授業態度(リアクション)・提出物を加点する	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア	授業の種類 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">講義</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">演習</div> <div>実習</div> </div>		授業担当者 高木 彩可 菅谷 由美子 太田 雅巳
授業の回数 60回	時間数(単位数) 90時間(4単位)	学年・時期 1年・前期 後期 2年・前期 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義やグループワークを交え、医療職との連携のもと、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な技術・知識を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 1. 医療ケアを必要とする人に対して関係法規及び尊厳と自立、医療倫理、そして安全管理、感染予防の知識を習得する。 2. 医療職と連携協働していくために、報告すべき観察ポイントを理解するための基礎的な知識を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション 医療的ケアとは ② 医療的ケアと喀痰吸引等の背景 ③ 清潔保持と感染予防①感染とはなにか ④ 清潔保持と感染予防②介護福祉職の感染予防 ⑤ 清潔保持と感染予防③消毒と滅菌 ⑥ 健康状態の把握①健康状態を知る項目 ⑦ 健康状態の把握②急変状態とは ⑧ 喀痰吸引の概論①呼吸のしくみと働き ⑨ 喀痰吸引の概論②喀痰吸引とは ⑩ 喀痰吸引の概論③人工呼吸器と吸引 ⑪ 喀痰吸引の概論④子どもの吸引について ⑫ 喀痰吸引の概論⑤利用者と家族への説明と同意 感染予防 ⑬ 喀痰吸引の概論⑥喀痰吸引を取り巻く危険、事後の安全確認 ⑭ 喀痰吸引の実施①喀痰吸引に必要な物品 観察項目 ⑮ 喀痰吸引の実施②喀痰吸引の手順 ⑯ 喀痰吸引の実施③喀痰吸引に伴うケア ⑰ 喀痰吸引の実施④演習 グループワーク ⑱ 経管栄養概論①消化器系のしくみと働き ⑲ 経管栄養概論②経管栄養とは ⑳ 経管栄養概論③注入する内容に関する知識 ㉑ 経管栄養概論④子どもの経管栄養について ㉒ 経管栄養概論⑤経管栄養を受ける利用者、家族への説明と同意 ㉓ 経管栄養概論⑥経管栄養に関する感染と予防 ㉔ 経管栄養概論⑦経管栄養により生じる危険、事後の安全確認 ㉕ 経管栄養実施の手順①経管栄養に使用する物品 ㉖ 経管栄養実施の手順②経管栄養の手順 ㉗ 経管栄養実施の手順③経管栄養に必要なケア ㉘ 経管栄養実施の手順④演習 グループワーク ㉙ 安全な療養生活①リスクマネジメント ㉚ 安全な療養生活②喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 ㉛ 安全な療養生活③KYTトレーニング ㉜ 安全な療養生活④救急蘇生法 ㉝ まとめ ㉞ 試験 振り返り 		<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション 口腔内吸引①解剖生理の復習デモンストレーション ② 口腔内吸引②演習 ③ 口腔内吸引③演習 中間チェック ④ 口腔内吸引④演習 手技テスト ⑤ 鼻腔内吸引①解剖生理の復習 デモンストレーション ⑥ 鼻腔内吸引②演習 ⑦ 鼻腔内吸引③演習 ⑧ 鼻腔内吸引④演習 手技テスト ⑨ 気管カニューレ内吸引①解剖生理の復習 デモンストレーション ⑩ 気管カニューレ内吸引②演習 ⑪ 気管カニューレ内吸引③演習 ⑫ 気管カニューレ内吸引④演習 手技テスト ⑬ 喀痰吸引 演習振り返り① ⑭ 喀痰吸引 演習振り返り② ⑮ 経鼻経管栄養 解剖生理の復習 デモンストレーション ⑯ 経鼻経管栄養 演習 ⑰ 経鼻経管栄養 演習 ⑱ 経鼻経管栄養 演習 手技テスト ⑲ 胃ろう 解剖生理の復習 デモンストレーション ⑳ 胃ろう 演習 ㉑ 胃ろう 復習 ㉒ 胃ろう 演習 手技テスト ㉓ 経管栄養 振り返り① ㉔ 経管栄養 振り返り② ㉕ 事例演習① ㉖ 事例演習② 	
<p>[使用テキスト・参考文献] テキスト 最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 省令で定める講義の時間数(休憩を除いた実時間 50時間以上)を受講する。欠席者は科目担当者が定めるレポートを提出すること。 2. 試験成績、課題及び意欲、提出物出席要件等を加味総合評価する。(基準:60点以上を合格とする) 	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 試験対策講座	授業の種類 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 小池 綾子 渡辺 志朗
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士国家試験の合格を目標として、これまでに学習した専門科目の知識を整理・定着させ、国家試験形式の問題に対応できる解答力を養うことを目的とする。 また、自分の苦手科目を把握し、自分の課題や目標を明確化し、それに向けての試験勉強の計画や学習方法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉士国家試験の出題基準に基づき、重要分野を中心に過去問題および模擬問題を用いた演習を行う。問題演習だけでなく、解答の根拠となる知識の確認や、設問の読み取り方、選択肢の判断方法など、国家試験に必要な解答技術についても指導する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 介護福祉士国家試験の出題範囲について基礎知識を整理し、国家試験形式の問題に対応できる解答力を身につけていること。自己課題について理解し、国家試験合格へ向けての学習方法を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回 過去問題・振り返り、知識の再確認①</p> <p>第2回 過去問題・振り返り、知識の再確認②</p> <p>第3回 過去問題・振り返り、知識の再確認③</p> <p>第4回 過去問題・振り返り、知識の再確認④</p> <p>第5回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑤</p> <p>第6回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑥</p> <p>第7回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑦</p> <p>第8回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑧</p> <p>第9回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑨</p> <p>第10回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑩</p> <p>第11回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑪</p> <p>第12回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑫</p> <p>第13回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑬</p> <p>第14回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑭</p> <p>第15回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑮</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 中央法規 介護福祉士国試ナビ 中央法規 介護福祉士国家試験合格ドリル 中央法規 介護福祉士国家試験模擬問題集 中央法規 介護福祉士国家試験過去問解説集 成美堂出版 介護福祉士法改正と完全予想模試		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">単位認定の対象外</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 試験対策講座	授業の種類 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 渡辺 志朗
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 本科目は、介護福祉士国家試験の出題範囲を理解し、1年次に学んだ基礎科目の復習と体系的整理 さらに講師の力を借りながら、未履修の分野の問題を解き、国家試験全範囲をカバーすることを目的とする。			
[授業全体の内容の概要] 特に、人体の構造と機能・発達と老化・介護の基本・認知症・障害の理解等の学習を深め 生活援助技術や介護過程、総合問題が解ける土台をつくる。			
[授業終了時の達成課題(到着目標)] 国家試験の出題傾向と出題形式を理解できる。 1年次で学んだ基礎的知識を国家試験問題形式で確認・説明できる。 自身の理解度を自己評価し、苦手分野を把握し学習計画を立てられる。 試験に対応する基礎的な読解力・判断力を身につける。 国家試験全範囲を概観し、後期の自己学習につなげられるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
第1回・第2回 オリエンテーション、過去問題・振り返り、知識の再確認① 第3回・第4回 過去問題・振り返り、知識の再確認② 第5回・第6回 過去問題・振り返り、知識の再確認③ 第7回・第8回 予想模試・振り返り、知識の再確認④ 第9回・第10回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑤ 第11回・第12回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑥ 第13回・第14回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑦ 第15回・第16回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑧ 第17回・第18回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑨ 第19回・第20回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑩ 第21回・第22回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑪ 第23回・第24回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑫ 第25回・第26回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑬ 第27回・第28回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑭ 第29回・第30回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑮			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 介護福祉士国試ナビ 中央法規 介護福祉士国家試験合格ドリル 中央法規 介護福祉士国家試験模擬問題集 中央法規 介護福祉士国家試験過去問解説集 成美堂出版 介護福祉士法改正と完全予想模試		[単位認定の方法及び基準] 単位認定の対象外	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 試験対策講座	授業の種類 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; margin: 0 auto; padding: 5px;"> 講義 </div> ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 小池 綾子
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士国家試験の合格を目標として、これまでに学習した専門科目の知識を整理・定着させ、国家試験形式の問題に対応できる解答力を養うことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉士国家試験の出題基準に基づき、重要分野を中心に過去問題および模擬問題を用いた演習を行う。問題演習だけでなく、解答の根拠となる知識の確認や、設問の読み取り方、選択肢の判断方法など、国家試験に必要な解答技術についても指導する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到着目標)] 介護福祉士国家試験の出題範囲について基礎知識を整理し、国家試験形式の問題に対応できる解答力を身につけていること。具体的には、模擬試験において**80点以上の得点を安定して取得できる水準(2回以上)**に到達することを旨とする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>第1回・第2回 オリエンテーション 過去問題・振り返り、知識の再確認①</p> <p>第3回・第4回 過去問題・振り返り、知識の再確認②</p> <p>第5回・第6回 過去問題・振り返り、知識の再確認③</p> <p>第7回・第8回 予想模試・振り返り、知識の再確認④</p> <p>第9回・第10回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑤</p> <p>第11回・第12回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑥</p> <p>第13回・第14回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑦</p> <p>第15回・第16回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑧</p> <p>第17回・第18回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑨</p> <p>第19回・第20回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑩</p> <p>第21回・第22回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑪</p> <p>第23回・第24回 予想模試・振り返り、知識の再確認⑫</p> <p>第25回・第26回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑬</p> <p>第27回・第28回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑭</p> <p>第29回・第30回 過去問題・振り返り、知識の再確認⑮</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 中央法規 介護福祉士国試ナビ 中央法規 介護福祉士国家試験合格ドリル 中央法規 介護福祉士国家試験模擬問題集 中央法規 介護福祉士国家試験過去問解説集 成美堂出版 介護福祉士法改正と完全予想模試		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> 単位認定の対象外	